



施設外観



正面玄関



待合室



検査室

厚生協会だより

2015年7月27日
第 332 号

発行
公益財団法人
宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：横山 公樹

写真提供：神馬悟さん（県連事務局）

2014年4月より錦町診療所所長となりました齋藤慶史です。錦町診療所への勤務は2013年8月からになります。

錦町診療所は歴史的に職業から疾患を見ていくことに重点を置いており、労災（振動病や塵肺、頸肩腕障害など）の方も多く通院しています。また、産業医学分野の中心としての機能もあります。近年ではブラック企業に代表される過重労働やメンタルヘルス障害の問題も大きくなっております。錦町診療所としてもますます社会に貢献ができると考えています。

皆様のご協力で診療を 発展させていきます

現在は前所長の広瀬先生の力を借りながら2人体制で診療しており、少しずつですが産業医活動や他院所の外来支援を増やすこともできています。

皆様のご支援もあり2015年5月には新しい診療所へ移転することもでき、職員はもちろんのこと、通院されている方や友の会の方も大変よ

ろこんでいます。（中には前診療所が昭和の趣きがあったよかったですという方もいらっしゃいます）。今後も皆様のご協力をお願いしながら診療を発展させていきたいと思

1984年に現在の青葉区錦町1丁目にて診療所を開設し、多くの方々に支えられながら31年余りが経過しました。旧診療所は愛着のある昭和の良き時代の建物でありましたが、建築後53年の年月に設備等の面でもこのまま診療を継続していくのは困難な状況が発生してしまいました。

バリアフリーで高齢者 にもやさしい施設に

皆様のご協力もあり青葉区上杉(旧診療所から徒歩数分)に移転し5月18日より診療を開始することができました。心より感謝申し上げます。

新診療所の広さは今までと大きく変わりませんが、今まで2階建てで階段があったのが1フロアー（5階建てのビルの3階でエレベーターあり）でバリアフリーになり、



放射線室

新患の多くは近隣に住居や職場がある方

高齢者にもやさしくなっています。いろいろと新しくなり綺麗になっていきますので、近くにお越しの際には見学がてら寄っていただければと思います。

移転後、2か月余りが経過しました。この間、新規の患者さんは55名を超える到達となっています。近隣に4,000枚余りの診療案内ハガキの配布とホームページの更新をした効果が新患の増加に一定反映されたと思われます。新患の多くの方は、近隣に住居や職場がある方が多く、ホームページを見て禁煙



スタッフのみなさん(前列中央が齋藤所長)

診療所で保健講座開催も

外来や一般外来に繋がった方もいるようです。

7月31日には、今年度1回目の保健講座を診療所で開催することを確認しました。

地域の方々に新しい診療所のお披露目も兼ねて地域に根ざした診療所としてアピールしていければと思います。協会内の引き続きのご支援よろしくお願いたします。



ケアステーション南光台所長に就任して

地域のニーズに応え、信頼されるステーションをめざす

ケアステーション南光台所長 阿部 功子



7月から所長に就任しました。

2002年 2000年 2002年 2000年

いずみ訪問看護ステーションから、南光台訪問看護ステーションに異動しました。開設当初私はパート職員として、前任の中村所長、現在南光台地域包括支援センターの白石所長と3名で、南光台訪問看護ステーション立ち上げから、関わらせていただきました。

当時は、南光台周辺地域の医師やケアマネジャーとの連携を重視しながら、利用者が在宅で安心して暮らせるよう、日々訪問看護に明け暮れていたのが今では懐かしさを感じます。ここまで続けてこられたのも前任所長はじめ、スタッフの協力があったればこそと感謝しています。

2014年10月ヘルパー事業を併設、ケアステーション南光台として出発し、現在ス

スタッフは23名になりました。今の事業所は床の傾きがあり、スタッフの健康障害を招き兼ねないため早々の移転を考えています。

介護の現場では、平成27年度の介護報酬改定で介護報酬の引き下げや、8月より介護保険制度改正で、一定以上の所得がある方々の利用者負担割合が2割になり利用者負担が増え、ますます厳しい社会情勢になってきています。

今後は定期巡回・随時対応サービスの検討等、更なる事業展開していくことが求められてくると考えます。

地域の方々のニーズに応え、介護・看護が連携し地域に信頼されるステーションをめざして、スタッフ一同頑張ります。

所長として経験が浅いため、不慣れな点が多くご迷惑をおかけするかもしれません。ご支援・ご指導の程よろしくお願致します。

宮城厚生協会からのお知らせ

- ①建設基金の特典が終了します。
 - ・人間ドック等の特典は2015年9月末をもって終了となります。
- ②公益事業を支えるためみなさんのご協力をお願いします。
 - ・協同基金(無利息で特典はありません)
 - ・寄付金(税制上の優遇があります)



坂総合病院増改築工事完了!!

坂総合病院副院長 小幡 篤 (増改築プロジェクト担当)



運用開始にあいさつする救急棟副院長 小幡副院長

「災害拠点病院」活動 評価による公的事業

坂総合病院と坂総合クリニックの間の中庭に建設していた建物が1月末に完成し、移動した旧リハビリテーション室の救急病棟への改修工事も5月に終了し、7月より救急病棟運用を開始いたしました。これにより増改築による地域医療整備プロジェクトの工事が完了いたしました。

今回の事業は国の地域医療再生事業・地域医療施設復興事業としての救急医療体制の強化・災害地域医療・包括的在宅ケア支援センター整備に対する補助金を活用したものです。東日本大震災後の坂総合病院の「災害拠点病院」としての活動が評価された結果、公的な事業として認めら

目的とその内容

今回のプロジェクトは①救急センター(救急室・救急病棟) ②医療従事者教育ステーション(地域医療教育ステーション・みちのく総合診療医学センター) ③地域医療連携ステーション(地域医療連携室・退院調整室・医療相談室の統合)④災害地域医療・包括的在宅ケア支援センターを目的としたものです。

増築した建物にはリハビリテーション部門が移動し心臓リハビリ用のスペースも新設し、心カテ装置を増設しています。さらに地域医療教育ステーションとして講演研修などに使用できる部屋とみちのく総合診療医学センターの拠点を新設し、換気装置改修が必要だった剖検室を新設移動し、診療サービス課も移動することで病院一階中央に地域医療連携ステーションを開設

しています。

プロジェクトの柱

「救急センター」

救急センターは今回のプロジェクトの柱ですが、入院病床満床による紹介・救急搬入のお断りを減らし、救急受け入れ体制強化のため、救急処置室の拡充と救急入院病床の新設などを実現しました。リハビリテーション移動したスペースに従来の救急処置室に隣接して救急対応スペースを拡充し救急入院用の病床として12床の病床を新設しました。届出病床数は変わりませんが、従来バツファー機能で運用していた一般病棟の病床を移動する形式で病棟新設しており、バツファー病床機能そのまま利用すれば実質的には全科共通で使用できる救急用の増床として機能できます。

災害医療に対しては東日本大震災後の対応で重要な役割を果たした1階の広いリハビリテーション部門を増築した建物の一階に移動し、そのあとを救急ステーションとして整備することで、前回以上の

収容対応能力を持つ施設となりました。

地域での役割さらに発揮していけるように

人的体制などの問題もあり徐々に全面稼働に進めていくことになりましたが、救急対応

力強化や入院病床運用の改善などにより、救急及び地域医療支援病院としての入院診療を向上させてこの地域での役割をさらに発揮していけるように新たな施設を活用していきます。



広々としたリハビリテーション室



心臓リハビリ室



救急病棟



心カテ室

2014年度決算を振り返って

社会保障制度の解体を阻止し、診療報酬改悪、消費税増税を乗り越える経営活動を！



専務理事
横山 公樹

診療報酬マイナスイラス改定と消費税増税でスタートした2014年度経営は、宮城厚生協会にとって大変厳しい結果となりました。

上半期の経営状況については本誌で、「上半期の経常損益は▲2億60百万円の赤字。この赤字を縮減することなしに、今後の経営展望は語れない」と報告しておりました。上半期の経営状態で年度末まで推移すると年間▲5億円を超える赤字となり、宮城厚生協会は大きな困難に直面する事態でした。

その後の下半期は、四病院での入院収益増加を図りなが

ら、全事業所で経営改善に取り組んできました。

決算利益は3億円赤字だが、課題は大きく

2014年度の経営結果を示す決算の当期利益は3億円の赤字になりました。これに



法人職責者会議 (3月29日)

より経営の安定性を示す純資産(自己資本)は9億94百万円となり、期首から3億円の増加・改善となっています。このような決算結果は、今後の事業展開の土台になるものですが、内容的には様々な

課題を残しています。

特に、宮城厚生協会の当期利益には多くの方からの公益寄付金や、国・県からの多額の建設補助金などが含まれています。当期利益は収益と費

用のバランス等の直接的な経営結果の上に、宮城厚生協会の幅広い事業活動の成果が加わっています。

直接的な経営成績を示す経常損益は▲3億17百万円の赤字となりました。前期経常損益56百万円から3億74百万円の減益となります。

事業収益は149億79百万円で前期から2億39百万円の増収です。診療報酬改悪の下での増収はさまざまな対策の成果です。

一方で、費用増加が収益増加を上回っています。増税負担が強い消費税や設備投資に伴う減価償却費の増加もありますが、人件費の伸びが増収額に匹敵しています。診療報酬等の対応では職員配置基準のハードルが高くなっています。職員配置の改善が収益増加に適切につながるよう検証が必要になっています。

社会保障制度改悪が強まる中で、収益増加は益々難しくなります。全事業所での費用管理の具体的な取り組みが欠かせません。(表①)

表① 【2014年度損益計算書の主要項目】

		単位：百万円			
	2014年度	構成比	前期決算	構成比	増減
事業収益	14,979	100.0%	14,740	100.0%	+239
うち入院	8,878		8,311		+67
外来	4,290		4,220		+70
介護	1,501		1,037		+464
事業費用	15,360	102.5%	14,807	100.5%	+553
うち人件費	9,855	65.8%	9,638	65.4%	+217
経費	1,554	10.4%	1,531	10.4%	+23
減価償却費	685	4.6%	536	3.6%	+149
消費税	362	2.4%	221	1.5%	+141
事業損益	△380	-2.5%	△67	-0.5%	△313
経常損益	△317	-2.1%	56	0.4%	△374
特別損益	617	4.2%	117	0.8%	+341
当期損益	300	2.0%	172	1.2%	+128

下半期の改善を 2015年経営活動に つないで

2014年度決算は宮城厚生協会の経営改革が、急ぐ課題であることを示しています。全国各地の7割を超える医療機関が診療報酬マイナスイラス改定と消費税増税による負担増加で経営悪化し赤字拡大に陥っています。そのような環境激変の下でも、振り返ると、上半期の厳しい経営状況をしっかりと受け止めた各事業所の取り組みによって下半期の経営改善は大きな実績を残しています。

事業収益は上半期に対して1億33百万円増加をつくり、経常損益では2億円を超す改善を示しています。

またまだ赤字構造から抜け出せないですが、下半期の前進に確信をもって、2015年度経営活動につなげていく決意です。(表②③)



表② 【上半期と下半期の比較から】

単位：百万円

	上半期	下半期	年間合計	%	下期増減
事業収益	7,423	7,556	14,979	100.0	+133
うち入院	4,171	4,207	8,379		+36
外来	2,123	2,167	4,290		+44
介護	747	753	1,501		+6
事業費用	7,690	7,668	15,360	102.5	△22
うち人件費	4,977	4,877	9,855	65.8	△100
材料費	813	839	1,652	11.0	+26
委託費	588	588	1,177	7.9	0
経費	740	813	1,554	10.4	+73
減価償却費	355	329	685	4.6	△26
消費税	179	183	362	2.4	+4
事業損益	△267	△112	△380	-2.5	+155
経常損益	△260	△57	△317		+203
特別損益	315	302	617		△13
当期損益	54	245	300		+191

表③ 【事業所別 経常損益の比較】

単位：百万円

事業所	坂合計	長町	古川	泉	診療所	歯科群	訪問群	事務局	合計
上半期	△131	△99	△11	1	△17	1	15	△18	△260
下半期	40	△58	17	△36	△1	8	△4	△24	△57
年間合計	△91	△157	6	△35	△18	9	11	△42	△317



(公財)宮城厚生協会 **公開シンポジウム** を開催します

日時 2015年 **9月12日** 14:00~

会場 ホテルメトロポリタン仙台

テーマ 「いま地域医療と介護はどこに向かうのか」

第1部 シンポジウム ・地域医療と介護はいま
 ・地域医療と介護はどこに向かうのか(政策討論)

第2部 レセプション



① 佐藤佳樹先生

週末の過ごし方 ～健康である限り、 海に出たい

健診センター所長 **佐藤 佳樹**

新しいフネ「Falcon」

天気が良い週末にはければ自分のフネで釣りに行きます。震災から1年以上経って、海も陸も落ち着いてきた頃、新しいフネを手に入れました。フネは全長7メートルの船外機付きのボートです。費用は新車1台分も掛かったけど。船名は「Falcon」と名付けました。

大型で波に強い漁船とは違います。あたりまえのことですが天候が悪ければ、海には出られません。雨の日は当然、晴れていても、風が強かったり、波が高かったりすれば小さなフネでは港の外に出られないのです。

大物が釣れた日は嬉しい。クルージングも楽しみ

そもそも私どもは週末しか休みがありませんから、天気が良くて本当に快適な日は一年に何回かしか無いです。まあ、アウトドアのレジャーってそんなものでしょうけど。それだけに、そういう良い日に海に出かけて、大物が釣れた日は嬉しいです。自分が釣れなくても、ゲストが大物ゲットすれば船頭としては合格でしょうから(笑)。

実績は大してありませんが、田代島の少し南では大きなカレイが釣れました。また、同行のSさんは大きなアイナメを釣りました。(写真①、②)

また別の日にはドイツから来日した妹夫婦をのせて田代島までクルージングを楽しみました。島でとった写真です。(写真③)



③ 妹夫婦とともに



② 同行のSさん

リスクもあるがチャレンジしがいもある

自然相手のレジャーは自由になる部分が少ないし、リスクも結構ありますが、それだけにチャレンジしがいもあります。今年も来年も健康である限り、海に出たいと思います。

